

パートナー
情報誌

香澄 かすみ

Kasumi

湖岸の特定外来生物

オオバナミズキンバイの状況	1～2P
霞ヶ浦水質浄化ポスターコンクール表彰式を開催しました	2～3P
環境学習フェスタ開催のお知らせ	4P
私の細道（その 47）越中路	4～6P
編集委員及び掲載原稿の募集	6P
編集後記	6P

パートナー情報誌 KASUMI 第 37号（通巻 75号） 発行日 令和 6年 1月 31日

「湖岸の特定外来生物オオバナミズキンバイの状況」

湖岸植物同好会は、田村・沖宿・戸崎地区自然再生事業の実施区間を含む湖岸で、植物の観察を続けてきました。今年度も、特定外来生物(植物)の出現状況を観察・記録し、防除に役立てたいと、小幡先生の指導の下、活動しています。香澄第 33 号(2023. 1. 31 発行)でも紹介させていただきましたように、私達の観察している湖岸では、アレチウリ、オオフサモ、ミズヒマワリ、オオカワヂシャ、オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウを確認しています。この中で、近年観察地に侵入し、繁殖力が非常に旺盛で、琵琶湖を初め各地で問題になっているオオバナミズキンバイ(南米及び北米南部原産の多年草)について、出現と駆除の状況を報告します。



2017 年 5 月 10 日、手野地先旧出島排水樋管で、当時の同好会メンバーだった吉川さんの情報により、霞ヶ浦で初めてとなるオオバナミズキンバイと思われる植物を観察しました(写真左)。ご指導いただいていた県環境アドバイザーの成島明先生の推察を元に、6 月 2 日に花を見て本種であることを確認しました。観察から 3 ヶ月半後の 8 月 28 日には、河川管理者の国土交通省霞ヶ浦河川事務所が中心となり関係諸機関や専門家が集まり、重機を用いた大規模な防除作業が行われました。当センターで自然観察会を担当していた福井先生他センター職員と同好会の吉川さん、江川さんと共に駆除作業に参加しました。

霞ヶ浦のオオバナミズキンバイの防除を主導的に進めて下さっている県自然博物館の伊藤さんは「発見後、早急に防除作業を行ったことにより、大部分の生育個体は防除され、現在のところ広範囲の分布拡大は認められていない。ただし、防除作業後数ヶ月で、茎や根の切れ端から発生したと考えられる個体が、走出枝を伸ばし、排水路内へと侵入していたことから、今後も分布が拡大していく可能性が十分にある。また、10 月下旬の台風による増水によって、茎や根の切れ端が流されて対岸などに渡った可能性も考えられる。」(伊藤・小幡・宮本・豊島・吉川・内山・西廣. 2018. 霞ヶ浦における特定外来生物オオバナミズキンバイ((アカバナ科))の防除とその後の生育状況. 第 17 回世界湖沼会議ポスター) と考察され、その後の定期的なモニタリングと駆除作業を実施し、生育を抑制してきました。2020 年 7 月に自然再生地 H 区で本種の広範囲の侵入を確認、花も見られました。手野の出現地で抑制管理を続けてきた霞ヶ浦河川事務所、県自然博物館、農研機構、県生物多様性センター、当センターが H 区でも組織的で継続的な防除活動を続けることによって、生育地の急拡大や開花個体は見られませんでした。2021 年 7 月には、伊藤さんと農研機構の嶺田さんが調査中に遭遇した河川愛護モニターの方の「桜川河口右岸の霞ポート前の植生で黄色い花が見られる。」との情報で、

霞ヶ浦のオオバナミズキンバイの第3の侵入地が見つかりました。ここは発見直後から霞ヶ浦河川事務所が頻繁な駆除作業を実施し、防除の成功例と言えるでしょう。自然再生協議会は環境管理活動として再生地でミズヒマワリを中心とした特定外来生物の除去を行い、除去範囲で減少効果が見られました。昨年度から伊藤さん、嶺田さんの指導でオオバナミズキンバイの駆除も行っています。

2022年4月、県自然博物館で発見当初から霞ヶ浦のオオバナミズキンバイに携わられてきた小幡先生が、当センターに赴任されました。同年10月の霞ヶ浦自然観察会のテーマにオオバナミズキンバイを取り上げて下さり、一般の方に知っていただくいい機会になりました。



昨年は気温の高い日が続き、7月、H区でオオバナミズキンバイに花が付き(写真左：栗山さん撮影)、前年以上に繁茂する様子が見られました。しかし春に伊藤さん達が土ごと除去した場所では再生が見られず、7月21日に霞ヶ浦河川事務所の呼びかけで実施した駆除作業では根元からの抜き取りではなく、土ごとの駆除を行いました。当センターから小幡先生、小川先生、坪さん、前野さんとパートナーの佐伯さん、塩田さん、吉川さん、二階堂が参加しました。

また11月20日に実施された自然再生協議会の環境管理活動では、今年度から会長に就任した前センター長の福島先生も一緒に作業をされました。多人数で効率良く駆除が進み、私達の定点観察で気付かなかった生育地点も見つかりました。12月6日の定点観察では、8箇所ですべて32本のオオバナミズキンバイの切れ端や取り残しを拾ったり抜き取ったりしました。20日からは生育地で重機による掘削工事が始まり、H区のオオバナミズキンバイ防除は第2段階に入りました。

手野の出現地では、昨年2月に重機による表土削ぎ取りと水路の土砂の浚渫が行われ、駆除物撤去後の秋期、数箇所ですべて再生しました。コンクリート法面にも硬い茎の断片から再生した大きな株が見られました。6月初めの高水位時に漂着したと思われます。11月10日に「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」の会員16名の方々が当センターを訪れ、オオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウなどの生育地を観察後、伊藤さんと嶺田さんの講演を聴きました。同会のホームページで「外来生物の定点観察」を見ると、僅かにオオバナミズキンバイとナガエツルノゲイトウが見られたのが2017年6月20日で、オオバナミズキンバイの侵入時期は私達の湖岸と同時期ですが、手賀沼では両種が広範囲に大繁殖しています。会員の方から手賀沼とは違い、霞ヶ浦ではオオバナミズキンバイの生育地を限定的に抑え込んでいるとの感想が聞かれました。私達は今後も湖岸のオオバナミズキンバイなど特定外来生物の状況を見ていきたいと思えます。

(パートナー 二階堂)

「令和5年度霞ヶ浦水質浄化ポスターコンクール表彰式」を開催しました

令和5年11月25日(土)に、センター多目的ホールにて霞ヶ浦水質浄化ポスターコンクール表彰式を開催いたしました。このコンクールは、霞ヶ浦や流域河川をきれいにしようという気持ちが伝わる作品や、理想の霞ヶ浦や未来の霞ヶ浦をイメージした作品をテーマに描くことで、霞ヶ浦や流域河川の水環境を考える契機とするとともに、水環境保全に対する意識の向上を図ることを目的

としております。

表彰式では、入賞者とその御家族約 100 名が出席し、応募総数 400 作品の中から選ばれた 54 作品の入賞者に表彰状が授与されました。また、表彰式後には、自由参加の体験イベントとして、プランクトン観察、展示室ツアー、センター庭探検を実施し、霞ヶ浦に親しんでいただきました。

子ども達の素晴らしい作品は、当センター小展示室で展示するほか、県内各地で巡回展示いたします。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

●巡回展示スケジュール

展示場所	展示期間
茨城県庁 25 階展望デッキ	令和 5 年 12 月 11 日 (月) ~ 令和 5 年 12 月 22 日 (金)
イオンモール土浦	令和 6 年 1 月 13 日 (土) ~ 令和 6 年 1 月 14 日 (日)
茨城県立図書館	令和 6 年 2 月 28 日 (水) ~ 令和 6 年 3 月 10 日 (日)

●県知事賞受賞作品

小学校低学年部門



石岡市立南小学校
3年 本田 紬花 さん

小学校高学年部門



土浦市立上大津東小学校
6年 古仁所 葵 さん

中学生部門



守谷市立御所ヶ丘中学校
3年 富樫 玲愛 さん

●表彰式の様子



賞状授与の様子



表彰式会場の様子



体験イベントの様子
(センター 前野)

「令和5年度環境学習フェスタ」開催のお知らせ

令和6年2月10日（土）9時30分～15時に、霞ヶ浦環境科学センターにて環境学習フェスタを開催いたします。

当フェスタは、環境について楽しく学習する機会を提供するとともに、環境保全に対する関心を高めることを目的に実施されます。

当日は、市民団体・県関係機関等による環境に関する体験、工作等のブース出展等や、県内小・中・高校生を募集対象に、環境学習や環境保全活動の成果を発表する環境学習成果発表会を実施するほか、土浦市主催の市内高校生が「20年後の霞ヶ浦の将来像～自然（供給サービス）～」をテーマにディスカッションを行う高校生霞ヶ浦ミーティングの開催を予定しております。また、近隣市町村のご当地マスコットキャラクターの登場、飲食ケータリングカーの出店も予定しており、楽しいイベント盛りだくさんの1日となります。

パートナーの皆様につきましては、ブース出展等をはじめ、フェスタの開催に御協力賜ることもあると存じますが、その際はどうぞよろしくお願い申し上げます。

（センター 坏）

「私の細道」（その47）越中路

曾良の旅日記によると、元禄2年（1689）7月13日（陽暦8月26日）に市振を立った芭蕉らは、丁度出ている虹を見ながら北陸道を南下して越中に入り、加賀藩の番所を通る。入善を経て黒部川の河口（黒部四十八が瀬）を渡り、滑川に宿を取った。

14日は富山へは向かわず、海岸線を西へ、新湊の放生津^{ほうじょうづ}。ここから内陸へと高岡に向かい宿を取る。芭蕉は熱暑の中の旅で相当弱っていたようである。

令和4年（2022）10月28日11時ごろ、芭蕉追隨旅行の我々4人は市振を出て北陸自動車道を南下、黒部・魚津・滑川・富山を超え、小杉ICから射水（新湊）へと。更に芭蕉が行こうとして断念した氷見へ。そして、高岡へ入った。この地はまさに「万葉」の地である。万葉集の編纂に携わった大伴家持が、天平18年（746）から5年間、越中の国守となっており、この地での和歌を数多く詠んでいる。これにより、富山湾の西側、能登へ通じる沿岸の景勝「有磯海」・「奈呉の浦」・「田子の浦」が歌枕の地となった。海岸沿いに「雨晴海岸」という岩礁がある。義経伝説の場でもあるが、ここに家持の歌碑と芭蕉の句碑が並んでいる。



雨晴海岸

馬並めていざうち行かな^{しづたに}渋谿の清き磯廻に寄する波見に

家持

早稲の香や分け入る右は有磯海

芭蕉



芭蕉句碑

家持歌碑

放生津は歌枕の地「奈呉乃浦」。芭蕉は「那古といふ浦」と記している。放生津八幡宮の境内横に芭蕉の句碑があるが、切断された跡があり、かなり風化している。氷見には「田子の浦藤波神社」があるが、「おくのほそ道」には「担籠^{たご}の藤浪」と記されている。芭蕉はもう一つの歌枕、この「担籠の藤浪」にも行きたかったが、地元の人に宿が無いと言われ断念した

ようである。由緒ありそうな鳥居の奥に薄暗い階段があり登っていくと、古びた本殿と謡曲「藤」の由来を記した立て札が掲げられていた。

高岡市内には、万葉電車・万葉ライン・万葉歴史館と、街に「万葉」が根付いている。高岡には、重要伝統的建造物群保存地区として山町筋と金屋町が見応えのある土蔵造りや千本格子などの街並みとして整備されている。この街中を万葉の路面電車が走行している。そして、高岡大仏。高岡は地方都市の観光地としての賑わいがある。

既に断片的に記したことはあるが、この「私の細道」は平成23年(2011)に始まり、最初は妻とふたりの日帰りの旅や単独での取材行であった。白河以北となると1泊しつつのドライブで対応していた。

この「みちのく行」の9年目から、こんなことを繰り返している我々夫婦の試みを聞いていた妻の姉夫妻が助っ人に入ってくれた。令和2年(2020)の「最上川」以降、4人の旅行となった。しかも、単なる参加ではなかった。それまで行き当たりばつたりの取材旅行であったが、義兄が予め旅程を詳細に調べ、取材地と時間を綿密に設定した旅行写真地図を作成し、義兄の車で我々を運んでくれるようになった。それまでの迷い旅、探し旅ではなく、設定した目的地を確実にこなしていく旅行となった。丁度、コロナ禍の緩和期を狙っての旅行であった。こうして、山形から新潟、富山へと快適な旅を続けてくることが出来た。

この旅行団となって、今まで芭蕉追隨に特化していた訪問地にその他の名勝地が加わってきた。山形行の帰路では、福島県の大内宿の茅葺屋根古民家に立ち寄っている。今回も芭蕉のコースでは無い飛騨高山や白川郷を訪れた後、高岡に出向き、次日は能登半島の、氷見→七尾→輪島→巖門^{がんもん}→千里浜をドライブした。特に、暗雲と荒波の隙間に赤黒く鬼が出るかのごとき千里浜の絶景には圧倒された。

実は、この義兄の実家は高岡の郊外、福岡町にあり、今回の旅の最後に4人で実家を訪れた。義兄の弟夫妻が白寿のお母さんと共に暮らしており、温かく出迎えてくれた。暫し、ふくよかな高齢のお母さんと義兄のゆったりとした語らいを見つつの穏やかなひと時であった。

福岡町は高岡から金沢に向かう北陸道の途中に位置しており、高岡に泊した芭蕉らはおそらくこの地を通り、埴生八幡、俱利伽羅が谷を経て金沢に入ったようである。

この旅がここまで来て、「おくのほそ道」を追う「私の細道」の意図を私はどう捉えるべきかと、



放生津八幡宮 芭蕉句碑

ふと思った。長谷川權は、芭蕉の「おくのほそ道」旅の終盤である越中路以降を「浮世帰り」と述べている。

追記：この稿を提出後、今年1月1日の夕刻に震度7の能登半島大地震が起きました。能登はじめ、石川・富山・新潟を含む日本海側の広い範囲が甚大な災害を受けています。被害を受けられた方々に心からお見舞いを申し上げます。

(パートナー 小松)

「パートナー情報誌香澄」編集委員及び掲載原稿の募集について

香澄編集委員会では、パートナーの皆さんにパートナー活動やセンター事業に関する情報を発信するため定期的に「パートナー情報誌 香澄」を発行していますが、皆さんも香澄編集に携わってみませんか。興味のある方のご参加をお待ちしております。

また、香澄に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センター内での活動内容や、お住いの地域の話題などなんでも結構です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れていただくか、つぎのメールアドレスにご投稿願います。皆さんからのご投稿をお待ちしております。

[投稿先メールアドレス]

e-mail: hi.tarumi@pref.ibaraki.lg.jp

(霞ヶ浦環境科学センター環境活動推進課 樽見宛)

(香澄編集委員会)

=====＜編集後記＞=====

新年あけましておめでとうございます。

皆様お正月はいかが過ごされましたか。新型コロナも5類に移行し、この年末年始は新型コロナ流行前の平穏な年末年始にいくらか近づけるかな？とっておりましたが、元日には最大震度7の能登半島地震の発生、2日には東京・羽田空港でおきた日航機と海上保安庁航空機の衝突事故発生と、あまり記憶のないお正月3賀日だったのではないのでしょうか。その様ななかで「湖岸の特定外来生物オオバナミズキンバイの状況」や過去の旅行先とダブルと、その様子が目に浮かぶ紀行文「私の細道」の連載。更にセンターでのイベント開催報告やお知らせの原稿をいただきました。お陰様で当初4頁構成の「香澄」を6頁構成の「香澄」とすることが出来ました。執筆者の皆様ご寄稿、ありがとうございました。

パートナーの皆さん、寒い日が続いておりますが体調に気をつけて、これからも元気にパートナー活動を続けて参りましょう。

(パートナー 浅野)

「香澄」編集委員会：浅野明宏、有吉潔、栗原繁、樽見博文